たり、あるいは施設を充実したりしているほか、小天に大規模なみかん選果場をつくって、共同出荷を進めるなど、いろいろと力を入れています。

東京市場だけを見た場合、三十四年度に熊本県から共同販売の線に乗って出荷したみかんの量は、七百五十トンという微々たる数字でしたが、三十五年には二千八百トン、三十六年には六千トンと伸び、今年はおそらく一万トンを越えるのではないかと期待されています。

この一例をみても、本県の果樹生産が順調に伸びてきており、しかも、共販体制が確立されて、東京等の市場に急速に進出しているということがいえます。

♣ 牧野改良に力こぶ ♣

畜産については、まず阿蘇地域の広大な牧野を、組織的に改良していこうというわけです。例えば、三十七年度だけの予算を見ても、阿蘇を中心として牧野改良を行なう面積は約六百㌶、金額にして一億円という事業資金が投入されています。

また、球磨郡、菊池郡をはじめとするホルスタイン種や、阿蘇小国地方のジャージー種等の乳牛のふえ方もめざましく、三十四年に約一万二千頭であつたものが、すでに二万頭を突破しているという大きな伸び方を示しています。

このほか、和牛、豚、鶏等も もちろん著るしい成績を挙げています。

畜産振興の推進体制の整備としては、種鶏場を独立強化(三十四年)したり、県事務所に畜産課を設けたり、県の種畜場を畜産試験場と改めて、新らしい充実した施設として現在改築中です。

また、あか牛の肥育試験をやっている国立牧場の阿蘇支場を誘致したことも、一つの成果でしょう。

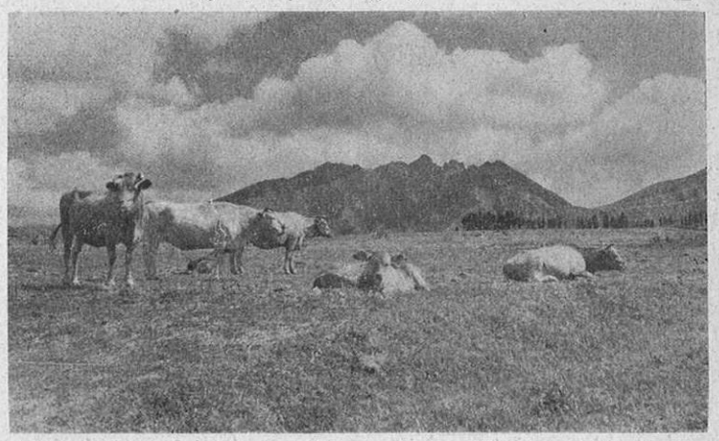
そのほか、稲作についても、今年から積極的に航空防除を採用して、今年度約五千㌶を実施しました。

こうして、果樹、畜産を重点として農業の近代化を推し進めてきた結果「農業所得の伸び」はまことに著るしいものがあります。

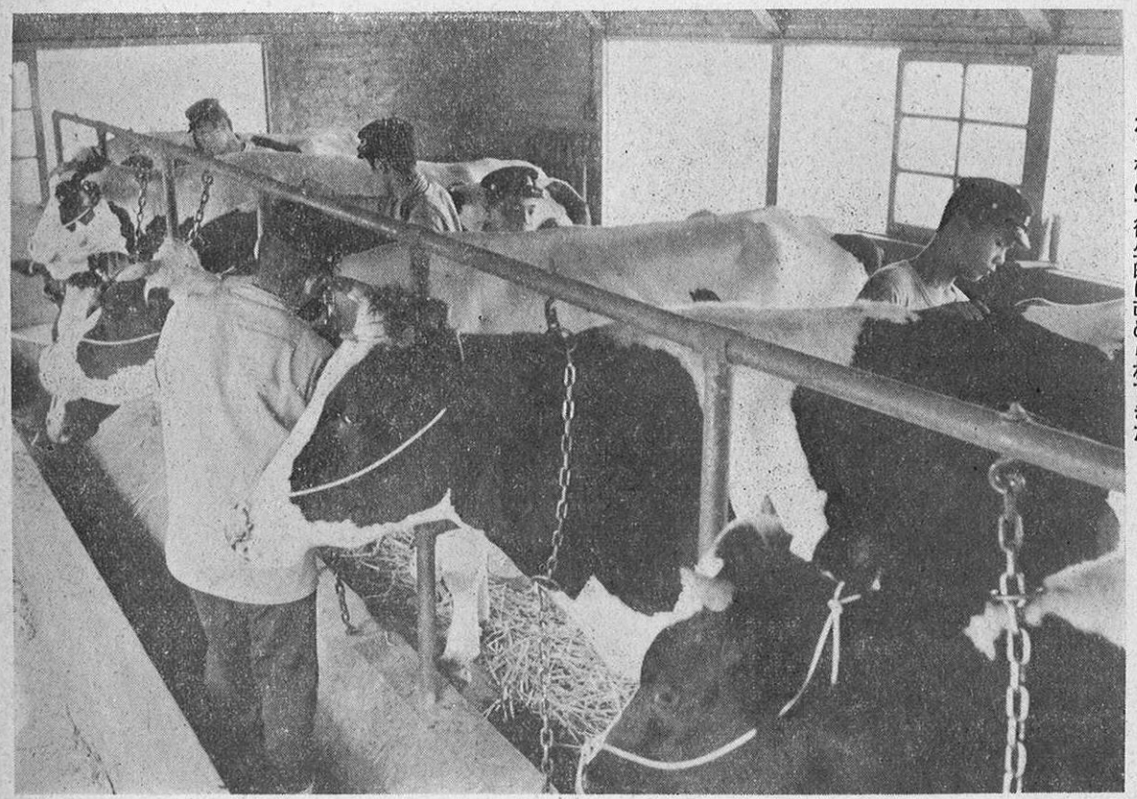
熊本県の農業所得の伸び率は、昭和三十五年度までは、九州各県、特に南九州の鹿児島、宮崎の伸び率よりも低かったのですが、三十六年には、前年対比一一・二%という、九州第一位の伸び率を示すに至りました。

次の頁にある表は、農家一戸平均の「農業所得」と、これに農業以外の所得を加えた「農家所得」を示すものです。

三十六年度の熊本県の「農業所得」の伸び率と、他県の伸び率を比べてみて下さい。



あか牛の放牧……■



乳牛の管理や畜舎の設備も、科学的にしかも極めて衛生的に改められてきた。

九州各県の農家の所得を比較してみると……

年度	所得別＼県別	全国	熊本	福岡	佐賀	長崎	大分	宮崎	鹿児島
		円	円	円	円	円	円	円	円
33	農業所得	196,847	204,752	199,412	234,501	120,329	168,390	169,246	149,939
	農家所得	349,469	316,754	417,809	346,545	238,003	293,118	261,656	234,050
34	農業所得	206,840	208,870	196,273	240,031	144,027	171,892	166,968	142,814
	農家所得	372,833	317,858	406,920	356,401	251,163	315,490	259,467	235,671
35	農業所得	219,240	216,046	204,289	274,278	145,260	182,095	178,012	147,888
	農家所得	411,839	334,819	426,176	416,018	308,235	336,800	292,617	256,679
36	農業所得	168,742	240,288	202,639	268,317	159,769	181,098	169,724	156,065
	(伸び率)	(−23.0%)	(11.2%)	(−0.6%)	(−2.1%)	(9.9%)	(−0.5%)	(−4.7%)	(5.5%)
	農家所得	410,093	362,367	470,036	459,891	347,252	393,006	282,235	274,936

(備考) ① 34年度の各県の数字は熊本統計調査事務所内部資料により、他は農林統計及び農家経済調査資料による。

② 農業所得＋農外所得＝農家所得